

令和四年度入学式式辞

四月は、自然も社会も人事もすべてのものが新しい環境の下で動き始める季節です。梅の花や菜の花が咲き誇ると入学や就職など人生の中でも大きな節目のスタートが始まります。

今、まさに陽春にふさわしい新しい出発の季節の始まりであります。ここ吉田高校でも桜の花が満開を終え、躍動感あふれる今日の良き日を迎えています。本日のお祝いに、PTA会長 森山しげる様、同窓会長 板倉定夫様、PTA 副会長 青木広樹様の御臨席を賜り、令和4年度愛媛県立吉田高等学校入学式を執り行うことができますことは、新入生はもちろん本校教職員一同にとっても大きな喜びであり、心より感謝を申し述べます。

先ほど、入学を許可いたしました百十六名の皆さん、御入学おめでとうございます。

本校は、今年で創立百五年目を迎える伝統校であり、二万二千八百名に上る同窓生が各界で活躍されています。この吉田町は、江戸時代に陣屋町として発展し、古い町並みや建造物が残された歴史と文化の風薫る街であり、山と海に囲まれた自然豊かな場所です。

この恵まれた環境の中でこれから新しい高校生活が始まる皆さんに大切にしてほしいことが二つあります。

一つ目は今抱えている気持ちです。この気持ちを大切に大きな希望へと夢を膨らませてほしいということです。高校時代は、学習活動や部活動を通して自分自身を見つめ、自分は何がしたいのか、何ができるのか、将来どのような仕事に就き、どのような人生を歩みたいのかじっくりと考えることができる時期です。「初心忘るべからず」という言葉は聞いたことがあるでしょう。室町時代に能を完成させた世阿弥の書『花鏡』に出てくる言葉です。初心とは「段階ごとに経験する芸の未熟さ」のことです。皆さんに置き換えると「その年齢にふさわしい挑戦をするということは、その段階においては初心者であり、やはり未熟さ、つたなさがある。そのひとつひとつを忘れてはならない」ということでしょう。中学校で、いろいろな経験を通して今日まで成長してきました。これから新しい挑戦が始まります。困難にぶつかったとき、それぞれの「初心に戻る」ということを思い出してください。

もう一つは、出逢いを大切にしてほしいということです。コロナ禍の中、人と人との出逢いが少なくなっていると言われてます。幸いにも皆さんは今日多くの友人、先生たちと出会いました。本校で教鞭をとられたこともあり、校歌の作詞者でもある詩人坂村真民氏の「二度とない人生だから」の第五節に「二度とない人生だから つゆぐさのつゆにも めぐりあいのふしぎを思い 足をとどめてみつめてゆこう」とあります。めぐりあいは不思議な

もの、今日の出会いは不思議なもの。今日だけかと交わした一言が将来の自分の道筋を定めてくれるものになるかもしれません。

これからはじまる吉田高校での3年間、共に学び、共に語らい、二度と来ない青春の日々を謳歌していただきたいと思っています。そして、その中で、精神（こころ）を修め、知と技を練り、志を果たすために必要な力を、しっかりと蓄えていくことができるよう私ども教職員は、精一杯力を注いで参ります。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。

お子様が一日一日を大切に、悔いのない充実した学校生活を送ることを祈念して、式辞といたします。

令和四年四月八日

愛媛県立吉田高等学校

校長 村井 浩昭